シミンのジリツを支援するＮＰＯ法人

シミンズシーズ

年次報告書 2021

ほいくえん
はじまりました！

2021 年度 報告とお礼

「かわのまちほいくえん」が開園しました。「まちの人と毎日をつくる保育園」をコンセプトに、これまでにない保育のあり方を求めて、悩み、もがき続けた１年でした。しかしながら、スタッフひとりひとりがこの課題に日々真摯に向き合い、対話を積み重ねたことで、少しずつではありますがシミンズシーズらしい保育への共通認識が芽生え、手応えを感じ始めるまでになりました。

保育園の存在意義は、子どもたちを育む取り組みだけにとどまりません。園児の散歩は行程にあるお家や公園や施設に、園児のおつかいは買い物先のお店に、園児の笑顔や歓声はまち往く人に、園の企画するイベントは商店街や保護者に、新たな風を巻き起こし、いくばくかの響を与えるようになりました。これまでの東播磨生活創造センター「かこむ」の運営を通じて培ってきた当法人のネットワークを中心にお声がけをし、たくさんの方々が園児に多くの学びを与えてくださいました。そして、そのことはその方々自身にとっても新たな「まちや人との関わり方」に気づいていただけたのではないかと感じています。さまざまな人との関わりの中で、「まちが園児を育み、園児がまちをつくる」そのような新しい形の保育ができつつあります。

そもそも、保育の構想は当法人で言う「個人、市民、地域のジリツ」を紡いだ先にたどり着いた結論でした。社会の変化への対応を常に意識して積み上げてきたノウハウやネットワークを保育という分野に活かし、従来の保育に新たな付加価値を付けようとしました。

しかし一方で気づいたことがあります。子どもたちは日々成長し、変化します。昨日の課題は今日の日常となり、スタッフには常に新たな対応が求められます。これは、私たちの活動に必要な「社会の変化への対応」そのものです。保育事業の安定化を図りつつ、もう一つの柱である「かこむ」事業も含め、先駆性と現場感のバランスの取れた人材育成をベースに据えて、法人全体で吸収できるノウハウを積み重ねていきたいと思います。

保育園の開園で、「かこむ」と「かわのまちほいくえん」の２本柱を中心とした体制がスタートすることになりました。さらに、これまでの実績に対する評価から、さまざまなご依頼をいただけるようになってきています。分野や内容はさまざまですが、「市民と一緒につくること」を期待していただくことが増えてきました。３つ目の柱となる当法人のノウハウを活かした自主事業とでもいうべき多様なプロジェクト群が少しずつ芽吹きつつあります。シミンズシーズとして取り組むべき事業と、関連会社である株式会社加古川まちづくり舎と連携して進める事業を整理しながら、次なる柱づくりを加速させたいと考えています。

2021 年度は、法人として初めて赤字決算となりました。当初から想定していたことではありますが、2022 年度は黒字化を目指し、組織基盤の安定化を図って参ります。

最後になりますが、この報告書がお手元に届く頃には法人設立 20 年の総会と記念イベントを迎えていることと思います。長年に亘るそれぞれのお立場でのご協力に感謝するとともに、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、報告とお礼といたします。

代表理事
田中　茂・柏木登起

2021 年度活動報告

もくじ

P.01　挨拶

P.03　シーズについて

P.05　ハイライト

P.06　事業報告…個人のジリツ

P.07　事業報告…市民のジリツ

P.10　事業報告…地域のジリツ

P.11　事業報告…団体のジリツ

P.13　事業報告…全てのジリツ

P.15　法人運営

P.16　講師派遣一覧

P.17　決算報告

P.18　2022年度事業計画

私たちは、
誰もが感じる「たのしい」という気持ちを
大切にしています

シミンズシーズのビジョンにある「『市民』という役割」とは、一人ひとりの「社会への関わり方」と言い換えることができます。

さまざまな課題が溢れる社会において、市民の社会への関わり方＝「責任」が問われています。しかし、この状況を「責任」と捉え、動きだす人はそう多くいるとは言えません。
私たちは別のアプローチで社会への関わり方をつくりだしていけるのではと考えています。それが、一人ひとりが抱く「たのしい」と感じる気持ちです。

人が「たのしい」と感じることはまさに主体的なものであり、その瞬間や場面、感じる対象などはさまざまです。ゆえに、そのエネルギーが社会に顕在化するには時間がかかり、強大な影響力は保証できるものでもありません。

しかし、そのエネルギーは、責任を押し付けることだけでは発揮しえない持続力や求心力を備えています。社会への関わり方としてこのような力が求められているのではないかと思うのです。

シミンズシーズは、地域や社会を「自分でつくる」ことで得られる「たのしい」を見出すために、さまざまなフィールドにおいて、一人ひとりの思いを尊重し活動しています。

社会の一員として参画することって「たのしい」。
自らの手で地域をつくることって「たのしい」。

これらの「たのしい」から人はあらゆる場面で「自分ごと」となり、ジリツした市民として主体的に社会に関わっていくと考えています。

社会には、たくさんの「たのしい」が眠っています。
「誰もが『市民』という役割をたのしめる社会」に向け、シミンズシーズは「たのしい」をプロデュースし続けます。

Vision

誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ

Mission

シミンの自律と自立を支援する

Service

" たのしい " のプロデュース

人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけを企画するのが私たちの仕事です

- 市民参加の企画・プロデュース
- コミュニティプランニング
- コミュニケーションデザイン
- チームブランディングプログラムの提供
- ファシリテーション

など

Field

シミンズシーズはシミンの自律と自立を支援する５つの事業を展開しています。シミンのいるあらゆるフィールドが、私たちの活動領域です。

1 個人のジリツを支援する 人材育成事業

Field 1 person

学校での参加型プログラム、インターンシップの受け入れを通じて、これからの地域や社会に関わる上で必要な、自ら考え行動する力をつけるための「学びの機会」を提供しています。

2 市民のジリツを支援する プロデュース / ネットワーキング事業

Field 2 citizenship

市民一人ひとりの力を活かして「参加できる場」をつくる企画事業を展開しています。「県立東播磨生活創造センター『かこむ』」は開設から運営に携わり、丸 14 年が経過しました。

3 地域のジリツを支援する コミュニティ創造事業

Field 3 local community

さまざまな主体が、地域の問題解決に向けて「自分ごと」として取り組める「場や機会」を提供することで、地域住民中心の地域づくり、コミュニティづくりを行っています。

4 団体のジリツを支援する NPO 等支援事業

Field 4 organization

自律的にスタッフが運営に携わり、チームとして１つになれるよう、チームづくり、理念づくり等の研修プログラムを提供しているほか、NPO 等の設立相談やネットワーク化など、NPO や行政、社会的活動のサポートを行っています。

5 すべてのジリツを支援する 環境整備事業

Field 5 environment

多様な人を巻き込みながら社会やまちのことを「自分ごと」に感じ、思う人をジリツした市民ととらえ、そのための環境や仕組みを整えていくための保育事業の運営や、各種講師／ファシリテーター等の派遣を行っています。

2021 年度 シミンズシーズ ハイライト

2021 年度にシーズで起きた出来事を
3つのトピックスにまとめました♪

1 まちの人と毎日をつくる「かわのまちほいくえん」開園

約2年の準備期間を経て、2021 年 6 月 1 日に 0 歳から6歳まで 17 名の園児を迎え、ようやく開園しました。開園に先立って5月 30 日には、内覧会を開催。これまで当法人と関わりのあったみなさんやお世話になったみなさんに園をご覧いただきました。当法人初めての保育事業。1 日の流れや1年間を組み立てることに試行錯誤しながらの 1 年でしたが、少しずつ「かわのまちほいくえん」らしい保育が見えてきました。2年目はまちづくりする保育園として、さらに進化していきます。

2 東播磨の豊かなくらしをつくる拠点「かこむ」の指定管理５期目スタート

東播磨生活創造センター指定管理５期目の初年度がスタートしました。4期では東播磨地域における「生活創造活動の裾野を広げる」ことを目指し運営してきました。今期からは「かこむ」の外でも裾野を広げていきたいと考えています。今年度は、これまでの団体支援からより個人の生活創造活動にフォーカスし、若年層を対象に「自分らしく生きるためのヒント」となる情報発信や多様な価値観と出会う学習機会の提供を始めとした支援を行ってきました。様々なことが予測しがたい現代。時代にあったライフスタイルや活動の在り方、それらへの支援が求められています。これからの時代の豊かさや新しいライフスタイルとは何かを模索し、一人ひとりの選択肢を広げ、時代の変化に対応していける生活創造活動の支援に 5 期目は取り組んでいきます。

3 法人事務所をまちなかに移転！加古川寺家町商店街内「かわのまちリビング」へ

新住所　〒675-0066
加古川市加古川町寺家町 363-4
かわのまちビルディング２階

＼じけまち商店街の入り口／

かわのまちほいくえんの開園に伴い、法人事務所も移転しました。加古川駅前寺家町商店街内を新事務所として、まちなかから、人と人のつながりを育んでいきたいと思います。事務所が入居する「かわのまちビルディング」は、1 階が保育園、2 階がかわのまちリビングとなっており、ビル 2 階の一角に事務所として入居しています。かわのまちリビングは、商店街からまちづくりを目指す拠点として加古川まちづくり舎が設置し、当法人が運営のサポートを行っています。加古川のまちなかに事務所をおくことで、これからのまちとの関係をつくっていきたいと思います。

兵庫県立農業大学校キャリアデザイン対面授業の様子

学校への参加型プログラムの提供事業

時代の変化に合わせた参加型プログラム提供

今年度も昨年に引き続き、「自らのキャリア形成」や「コミュニケーション力」といったテーマでの授業を3校で実施しました。コロナウイルスの流行は昨年度より落ち着きつつも、時期によってはまん延防止等重点措置が発令されるなど流動的であったため、できる限り対面での授業形態を維持できるよう配慮しつつ、学校によってはオンラインでの授業期間や自宅待機者のオンライン参加、これまでにはなかった実施条件が付される等、その都度柔軟な対応が求められるものとなりました。そのような中でも、新しい授業の形を模索し、それぞれの学校に合わせたプログラムを検討、実施することができたと感じています。

例えば、当初すべて対面の予定で準備していた兵庫大学でのコミュニケーション論は、4月は対面、その後2ヶ月ほどオンライン授業となり、後半は対面授業に戻るというものでした。

全体の授業構成（シラバス）はそのままに、チャットや投票機能、オンライン会議室内をさらに小グループに分ける機能、クラウド型教育支援サービスのアンケートやレポート提出機能など、目的に合わせて各ツールを使用することで、オンラインでも学生との距離を感じることなく、対面授業再開時もスムーズに移行することができました。参加学生の最終レポートでも、他者から学んだ点や自分のコミュニケーションを振り返り学んだことを活かしていきたい点などが挙げられており、体験的な学びから自分ごと化している様が垣間見られます。

今後も時代の変化や個別事情に合わせて柔軟にカスタムメイドしていくことで、参加者にとって意義ある授業を提供していきたいと思います。

DATA

兵庫県立農業高等学校定時制課程
- 4年　シミンのジリツ講座　5回

兵庫県立農業大学校
- 1年　キャリアデザイン　4回

兵庫大学
- コミュニケーション論　15回

＼インターン受け入れ実績／

個人（大学生）
NPO法人ドットジェイピー（関西学院大学生）
兵庫大学
兵庫県立加古川南高等学校（インターンシップ）
株式会社KEGキャリア・アカデミー（社会人）
あかし若者サポートステーション（若者無業者）
個人（高校生）
加古川市立加古川中学校（トライやるウィーク）

インターンシップの受け入れ人数は今年度17名！

東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営事業

豊かな東播磨ぐらしを利用者と模索し創造する拠点へ

指定管理運営第5期目（2021年度～2025年度）の初年度となる2021年度は、コンセプトに従来の「つながる施設」に加えて「新しい自分と出会える施設」を掲げ、これからの豊かな東播磨ぐらしを県民とともに模索し、創造する拠点とする施設像を目指して新たなスタートを切りました。

指定管理期間が3年から5年となり、より踏み込んだ取り組みができると意気込んで始まったなか、新型コロナウイルス感染症の影響と緊急事態宣言に伴い、約1ヶ月の休館となりました。休館中は貸室事業をはじめ、団体登録制度「カコラボ」会員の活動や、ボランティア「運営パートナー」の活動がすべて停止するなど、制限下での運営を余儀なくされました。下半期からは、徐々に団体の活動再開の兆しがみえ始め、昨年度からの感染症対策の経験を生かしつつ、活動支援に取り組みました。

また、あこれからの豊かな暮らしには、他者との学びが欠かせないと考え、主催講座「東ハリマくらし学校」では、学びの場をかこむから東播磨地域全体に広げていこうとコンセプトをリニューアルしました。加えて、東播磨地域で豊かな暮らしを様々な視点で広げることを目的とした企画「東ハリマ豊かサミット」を初めて開催しました。今年度のテーマは、「学びってなんだろう?」。バーチャルオンラインツール「ｏＶｉｃｅ」を活用して16の講座を開講し、Ｚｏｏｍ以外のツールを試す機会になりました。昨年から続くコロナ禍の影響はあるものの、「豊かな東播磨」に向けて、新たな支援方法に挑戦した1年でした。

豊かな暮らしや生き方の情報発信！

つながりの中にある
豊かさを伝える季刊誌

人生に悩んだら手にとってみてほしい。自分らしく生きるための「HINTO」

DATA

開館日数	331 日
年間来館者数	156,310 名
有料施設稼働率	64.5%
登録ボランティア総数	39 名
kaco-LAB. 登録	333 団体

多様な価値観を持ったグループが集う１日 東ハリマゆたかサミットを開催！

今年度より全館を利用した活動発表の場を「これからの豊かな暮らし」を考えるイベントとして「東ハリマゆたかサミット」を開催しました。コロナ禍での開催ということもあり、状況の変化に対応できるよう実施場所はオンラインを中心に、「かこむ」室内でも授業の参加・視聴ができるように開放する、ハイブリッドでの開催としています。

オンラインツールはバーチャル空間を作ることができる oVice を初めて活用しました。自由に移動でき、より対面に近い形でのコミュニケーションがとれるため、参加者に新たなツールを体験してもらおうと採用しました。

また、事前に打ち合せ会を行い、講師同士の交流を図り、当日はお互いの講座に参加し合って、他分野の活動を知るきっかけになりました。ただ同じ場に居合わせるのではなく、ある程度何をしてるか知り合う時間を持つと距離がぐっと縮まるということを実感しています。他事業を考える際にも参考にしていきたい。

「学び」をテーマにした講座（一部）

「ことばのはなし」～プラスのことばは魔法のことば～
障がい者の就労支援ってなに?
播磨の歴史の謎を解く!
アクセスバーズミニ講座ストレスの軽減
子どものためのグローバル　イングリッシュ入門

バーチャル空間 oVice を活用したハイブリッド開催の様子

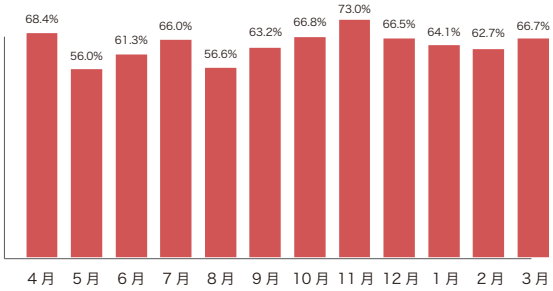
かこむでの対面による「学び」をテーマにした講座の様子

コロナ禍でも利用できる施設運営

緊急事態宣言下で休館期間（4月 25 日～5月 11 日）や開館時間短縮期間があり、有料施設稼働率は落ち込んだものの年間を通じて 64.5％を維持。昨年平均 51.5% を大きく上回る結果となりました。近隣公共施設の閉館や移転に伴い、代替施設として選ばれていることも要因として考えられます。

フリースペースでは、閉館前の利用者に使用場所の消毒を声かけしたところ「閉館 10 分前にはみんなで消毒」という流れが定着し、なかには使用していない活動ブースを進んで消毒する高校生の姿も見られました。コロナ禍でも利用できる公共施設のために、利用する人へ参加を促すことができたと考えます。

施設の稼働率の推移（2021 年度）



多様な価値観・居場所に出会える「東ハリマくらし学校」

学びを通じて「新しい自分と出会う」機会を働きかけようと、11 月よりコンセプトをリニューアルし、授業を公募しました。東播磨全体を学校ととらえ、地域に一緒に学べる先生や仲間を増やしていこうと提案。地域で活動するなら誰でも登録できる「まちの先生バンク」を開始し、かこむ外で活躍する講師情報も収集できるようにしました。

特に講師から授業開催を希望する反応があり、参加型、対話型の「学び合い」に共感する声が多く聞かれました。一方で、参加者の獲得には課題が残りました。講師のチャレンジを尊重しつつも、参加者目線で授業を設定していくことの必要性を感じています。

東ハリマくらし学校の授業（一部）

植物（樹木）の素晴らしさを知ろう
苦手な人でも出来るお片付け講座
老若男女脳トレ爆笑リトミックベビーリトミック
そなえる救急医療情報セミナーいざというときどうする？
コロナ禍での対策遺言書の作成
加古川歴史講演&探索プロジェクト

まちマチゼミ「地域の大人と連携して課題を考えるワークショップ」の様子

東播磨「人・まち」わくわく学び塾事業

地域のなかで若者の「やってみたい」を支援する

「東播磨『人・まち』わくわく学び塾事業」は、進学や就職により地域を離れる可能性のある若者を対象に、東播磨地域への愛着を深め、地域づくり活動への関心を高めることを目的に、兵庫県東播磨県民局からの委託を受けて実施しています。

地域や大人と関わる機会が少なくなっている若者に対し、地域との接点を増やすことで関心を高められるよう、コロナ禍においても対面での関わりを大切に事業を行いました。その代表的な取り組みが「まちマチゼミ2021」で、学生がグループごとに課題を考え、地域でのヒアリングなど調査を実施。実態を把握した上で課題に対してどう取り組めばいいのか、検討してきた内容を、地域の人に向けて発表しました。昨年度のゼミと大きく異なる点は、学生の活動サポートに関心のある社会人参加者も募集し、高校生・大学生・社会人によるチームでの活動に変更した点です。実際に地域で活動する大人たちともふれあったことで、「まちマチゼミ」終了後の活動にもつなげることができました。

本事業を通じて、地域で何かしたい、地域で経験することによって学びたい、と考える学生は少なくないことを実感しています。学生の学びという視点でも、地域の学生参加という視点でも、今後、地域と学生をつなぐコーディネート機能が、ますます重要になると考えます。

DATA

学校と連携した地域づくりワークショップ	開催回数 2 回 参加者数 303 名
活動実践型ワークショップ「まちマチゼミ」	開催回数 3 回 延べ参加者数 47 名
コーディネーター養成講座	開催回数 2 回 延べ参加者数 10 名

地域でのヒアリング調査などのフィールドワークの様子

地域活性化事業

地域情報発信とコーディネート

昨今、地域では人口減少・少子高齢化・公共空間の利活用など、様々な課題があります。東播磨地域でも、それぞれのライフスタイルに合わせたこれからの地域のかたちを模索することが必要です。そのなか、これからの地域づくりのキーワードとして、「連携・協働」と「市民参加」の要素が、ますます重要と捉えています。今年度、地元企業BANIBANネットワークス株式会社と連携し、「加古川経済新聞」による地域情報の配信や、加古川駅前コミュニティスペース「びぃぷらす加古川」での定期イベントのコーディネートを実施。地域で活動するNPOや市民活動を後押ししました。

また、行政との連携にも取り組みました。加古川市に対しては、市街地の賑わいづくりとして河川敷の整備（2023年予定）に向けた「かわまちづくり計画策定」のサポートを実施。東播磨県民局では、「高校生による観光PR動画」のワークショップを行うなど、市民の声を反映させる部分に関わりました。

東播磨地域のさまざまなフィールドにおいて市民参加による地域づくりをひろげていきます。

DATA

加古川経済新聞の配信	47 回
コミュニティスペース	
団体コーディネート	12 回
かわまちづくり WS 支援	4 回
学生動画作成 WS 支援	2 回

加古川経済新聞の配信

団体コーディネートの様子

地域のジリツ

かわのまちリビング運営支援事業

商店街のつながる拠点

加古川駅前寺家町商店街にある株式会社加古川まちづくり舎が設置する「かわのまちビルディング」の2階、「かわのまちリビング」の運営支援を行いました（※ビル1階がかわのまちほいくえん）。

「かわのまちリビング」では、コワーキングスペースのほか、私設図書館機能や、ショップ機能、イベントスペース機能を設けており、当法人が地域の人をつなぐコーディネーターの役割を担いました。地域のなかで人と人の関係性を育み、商店街と市民の関わりが広がるようサポートしています。ビル1階のまち保育を実践する「かわのまちほいくえん」と連携を図り、新しいまちの形、コミュニティの形を、まちづくり会社と協議しながら運営支援を行っています。

かわのまちリビングでのイベント出店の様子

施設内でこどもたちが雛人形を楽しむ様子

施設内のスペース

団体のジリツ

NPOへの伴走支援

チームづくりをサポート

今年度は、2団体に対して支援を行いました。一つは、任意団体からの依頼で、団体の立ち上げから10年以上経過し、関係者も増え、現状にあった理念が必要とされていました。ビジョンとミッションを策定するため、理念の元となる「らしさ・強み・存在意義」の言語化をサポートしました。また、内部の声だけでなく、外の声を知るために関係ある地域住民に向けたヒアリングシート作成の補助も行いました。

もう1団体は、昨年度から引き続きひょうごコミュニティ財団が実施する有園博子基金の助成団体への伴走支援です。コロナ禍による活動の変化やメンバーの入れ替わりがあり、改めて団体の方向性を関係者で話し合う場が求められました。半年のプロセスの中で「団体の意義とは何か」に立ちかえる必要性が見えてきました。コロナ禍で飲食に制限がかかることで「雑談」の量が著しく低下したことは、団体内の関係性にも大きく影響を及ぼしています。日頃の何気ない会話の中で、ちょっとした違和感が解消されたり、よりよいアイデアが生まれたりしていたことがなくなっていると言います。団体内の関係性をはじめ、事業の方向性を考える上でも、コロナ禍では対話の場を意図的に設けていくことが重要だと改めて感じました。

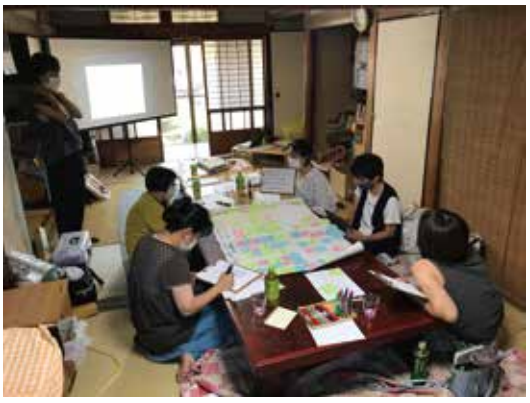
また、例年行っているデザイン制作支援の依頼が引き続きあり、講座内容を効果的にわかりやすく伝えるためのサポートを行いました。

DATA

みんなのお茶の間ゆるり家（任意団体）
伴走支援２回ほか

NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご
伴走支援３回ほか

すっきゃ加古川／加古川観光協会
加古川検定講座　チラシポスター



団体支援のワークショップの様子

宍粟市の会員団体訪問の様子

ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局事業

当法人は、兵庫県内のNPO・NGO約120団体が集まるネットワーク組織「ひょうご市民活動協議会（HYOGON）」の事務局を担当し、全体に関わる会議運営（運営委員会・総会）やその他会員管理、会計業務などを担っています。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により、県内のNPO・NGOは大きな影響を受けましたが、オンラインツールをうまく使いながら、会員同士の交流やつながりを深める活動を支援しました。

2021年度の活動で特筆すべきこととしては、兵庫県知事選挙立候補予定者の公開討論会を開催したことです。運営委員を中心に実行委員会を形成し、会員団体からも多くの協力を得て、LIVE配信という形で開催しました。HYOGONという市民団体のネットワーク組織だからこそ実施できたこの事業に、当法人も事務局としても参画することができたことは大きな意義があったといえます。当日は、兵庫県知事選挙立候補予定者とともに、兵庫県の地域課題や参画・協働の施策等について考える機会となりました。

公開討論会の様子

DATA

公開討論会の開催支援
1回

総会の運営
年1回（6月）

運営委員会の運営
年5回

メーリングリストの運営
通年

その他会計業務等
通年

まちの先生と行ったたくさんの体験活動の様子

加古川かわのまち保育園運営事業

まちの人と毎日をつくる保育園

4月には保育メンバーとの事前研修がスタート、5月からは職員の勤務もはじまり、19名定員で開始する園児たちの入園前面談を実施。5月30日には内覧会を開催し、コロナ禍にも関わらず100名を超えるみなさまがお祝いに駆けつけてくださいました。そして2021年6月1日、長く準備してきた「かわのまちほいくえん」がようやく開園しました。

今年度は、企画段階での構想と実際に園児・職員がいるなかでは異なる点も多く、試行錯誤しながら子どもたちの暮らしの場としての基盤をつくっていった1年でした。それぞれ異なる保育経験、保育観をもってあつまった職員と「かわのまちほいくえんの保育」とはどういうものなのかを議論しながら見出していく過程には、毎月1回の全員があつまる研修と会議の時間が役立ったと感じています。関係性づくりや理念共有といった、これまで当法人が培ってきたチームブランディングのノウハウが大いに活かされました。それにより、まだまだ未完成ではありますが、「まちの人と毎日をつくる保育園」として、「子どもたちの自律と自立を促す」園の方向性が実態として見えてきました。多くのまちの方に関わっていただき、まちの人の存在は子どもたちの日常のなかに息づき、まちの人のなかにも「かわのまちほいくえん」の子どもたちの存在が溶け込んできつつあります。1名の卒園児で迎えた園初めての卒園式では、園児がよくおつかいに行く商店街のお店の方がサプライズでプレゼントをもってかけつけてくれました。子どもたちからはたくさんのお店やまちの人の名前が、会話のなかで自然と聞かれるようになっています。

2年目は、シーズらしい保育の形を、子どもたちの生きる土台をつくる保育期間全体を通して体系的に整え、質を高めていく1年を目指します。

＼2021年度内部研修実績／

4月　チームビルディング
　　保育理念、ビジョン共有など
5月　地域情報の把握、危険箇所の確認
　　法人全体チームビルディング
6月　保育の改善検討　法人総会
7月　社会の変化とこれからの保育
9月　子ども主体の保育の現在地
　　保育の改善検討
10月　年間カリキュラムの振り返り（半期）
11月　保育安全研修 - 心肺蘇生法 -
　　子ども主体の保育研修共有
12月　発達の視点から考える乳児期の保育
1月　１年の目標設定とキャリアデザイン
2月　年間カリキュラムの振り返り（年間）
3月　新メンバーとのチームビルディング

毎月第３日曜日の研修の様子

まちの中で育つ、子どもたちの日常

園庭のない、商店街の中にある「かわのまちほいくえん」では、子どもたちは日常的にまちに出ていきます。徒歩3分の公園はもちろん、少し遠い公園や神社も、アーケードの商店街も、子どもたちにとっては園庭代わりです。「今日はどこに行きたい?」「何して遊ぶ?」そんなことを 1 歳児頃から、朝の会で子どもたちと相談し、意見を出し合い、決める形をとっています。近くのお店におつかいに行くということも、0 歳児から幾度となく経験していきます。園庭がないということは、子どもたちの日常に選択肢を増やし、まちに親しむ機会を増やし、日々を豊かにしてくれています。多くのまちの資源が話されるようになった1年間の子どもたちの変化をみて、商店街の中にある園だからこそできる学びや成長があることを感じています。

おつかいに出かける子どもたちとまちの人の様子

卒園児が書いてくれた「まちなかお散歩マップ」

DATA

利用園児数（3月末時点）
22 名

企業主導型保育事業
従業員枠利用提携企業数（3月末時点）
20 社

運営委員会の運営
年 5 回

2021 年度関わっていただいた
まちの先生
36 名（団体）

かわのまちほいくえんに関する講演
2 件

まちの先生とのさまざまな体験活動

当法人がこれまでの活動で培ってきたさまざまなネットワークから、今年度は 36 名（団体）の地域の方々に、「まちの先生」として関わっていただきました。魚屋さんに魚を捌く様子を間近で見せてもらったり、大工さんと木工をしたり、アーティストさんと一緒に絵を描いたり、折り紙や凧づくり、昔遊びの普及活動をしている団体のみなさんと昔ながらの文化に親しんだり…と、本物を体験させていただきました。さまざまな大人のロールモデルを知ることは、子どもたちの将来へのイメージを豊かにしてくれています。卒園式では、まちの人とこんなことをして楽しかったという思い出が 10 ヶ月しか過ごしていない卒園児の口から語られ、子どもたちの中にまちの先生が自然と存在していることを感じました。

アーティストさんとアート遊び

まちの人とつくる行事

コロナ禍でお祭りを知らない、浴衣や甚平を着たことのない子どもたちに経験させてあげたいとの思いから「かわのまち夏祭り」を初めて開催しましたが、「まちの人とつくる」を体現する当法人らしいものになりました。子どもたちが着る浴衣はリサイクル着物屋さんが丈をそれぞれの子どもたちに合わせて寄付してくださり、屋台のゲームは商店街で縁日をしていた頃のものを近隣店舗にお借りし、景品は提携企業からのご厚意。当日のスタッフは小学生から大学生までのお兄ちゃんお姉ちゃんが担ってくれました。園だけではできない充実した時間に、子どもたちもとても喜んでいました。これからも地域のみなさんと「一緒につくる」を続けていきたいと考えています。

寄付いただいた浴衣で中学生のお兄ちゃんと楽しむ子どもたち

シーズ機関紙「たのたね」

これからの「たのしいのたね」という願いを込めて発行している機関紙「たのたね」は 23 回目を迎えました。社会の変化や当法人の活動内容を伝えるために 1 月に発刊しました。

vol.23　これからのたのしい“まちとの関わり”

たのたね探求会の開催

職員、役員及び会員との学びの機会として「誰もが市民という役割をたのしめる社会」をつくるために必要な学びを探求する講座を開催しました。機関紙「たのたね」のテーマと紐づけた学び合いの機会として、継続開催を予定しています。

12 月 17 日　NPO 法人ハンズオン！埼玉　西川正氏
つくる人もつかう人も楽しくなる “あそび” の生まれる場所のつくり方

総会

第 19 期通常総会の開催

出席者数：正会員総数 37 名中 32 名（うちオンライン 3 名、委任状出席者 18 名）
日　　時：6 月 20 日（日）14 時 30 分～16 時 30 分
場　　所：かわのまちリビング
審議事項：2020 年度（第 19 期）事業報告の件／ 2020 年度（第 19 期）決算報告の件
　　役員選任の件／法人所在地変更の件／役員報酬規定の改定の件
報告事項：2021 年度（第 20 期）事業計画の件／ 2021 年度（第 20 期）予算の件

理事会

第 1 回	4 月 19 日	かわのまち保育園進捗状況共有、借入金の承認、保育園工事契約締結の承認
第 2 回	6 月　7 日	事務所移転と賃貸契約の承認、加古川まちづくり舎からの事業受託の承認
第 3 回	6 月 20 日	代表理事・副代表理事・常務理事の互選の承認
第 4 回	8 月 23 日	事業の現状報告、給与 PJ の報告、規約改正の承認、今後の意見交換
第 5 回	10 月 18 日	規程の改定の承認、2021 年度上半期（4 月～9 月）の報告、2021 年度下半期の報告
第 6 回	11 月 30 日	2021 年度決算見込みの共有、12 月賞与の承認、通勤交通費支給規程の改定の承認
第 7 回	2 月　4 日	経営戦略合宿の報告、2021 年度決算見込みの共有、役員との契約等に関する承認 給与 PJ 発足の共有、2022 年度の事業の方向性の承認、規定の改定の承認
第 8 回	3 月 28 日	給与 PJ の報告、規定改定の承認、2022 年度計画及び予算の承認、理事追加の提案

2022 年度役員

代表理事	田中　茂	柏木登起		
副代表理事	畑本康介	破魔淳司	常務理事	阪口　努
理事	幾田一輝	井原卓也	木上裕貴	佐伯亮太
	春下充代	柳川詔一	猫田一城	
監事	高橋　逸	和田谷幸子		
顧問	高田良彦	田代恭也	嶋谷拓雄	
	中村義弘	船本博一	堀田照夫	

2022 年 6 月 19 日 現在

2021年度講師・委員等派遣一覧

柏木登起

朝来地域自治協議会	アドバイザー	まちづくり実行計画策定支援
兵庫県西播磨県民局	アドバイザー	佐用町幕山地区アドバイザー
佐用町企画防災課	アドバイザー	佐用町海内地区アドバイザー
佐用町企画防災課	アドバイザー	佐用町アドバイザー会議
兵庫県但馬県民局	アドバイザー	但馬地域再生プロジェクトチーム会議
兵庫県但馬県民局	アドバイザー	朝来市粟賀地区アドバイザー
合同会社ひとむすび	アドバイザー	地域自治組織支援に関する相談・アドバイス
佐用町企画防災課	委員	佐用町地域づくり協議会あり方検討会議
朝来市まちづくり協働部	委員	小規模集落対策懇話会
養父市人権・協働課	委員	地域再生大作戦未実施集落元気度調査検討会
兵庫県企画県民部地域振興課	審査員	地域再生大作戦補助金選考
兵庫県企画県民部地域振興課	講師	地域再生アドバイザー会議
朝来市まちづくり協働部	講師	地域づくり研修会・地域担当職員キックオフセミナー
ＮＰＯ法人丹波ひとまち支援機構	講師	地域の「会議」をよりよくするための連続講座
佐用町企画防災課	講師	協働のまちづくり推進担当者研修会
兵庫県社会教育研究大会	講師	兵庫県社会教育研究大会「社会教育における地域力（市民力）を発揮させるための方策」
兵庫県丹波県民局	ファシリテーター	丹波市過疎地域計画策定ワークショップ
佐用町まちづくり推進会議	ファシリテーター	佐用町男女共同参画計画見直しにかかるワークショップ

柏木輝恵

こころ豊かな美しい東播磨推進会議	委員	東播磨地域づくり活動応援事業事例発表会
こころ豊かな美しい東播磨推進会議	審査員	東播磨地域づくり活動応援事業助成金審査会
ＮＰＯ法人コミュニティ・サポートセンター神戸	ゲストスピーカー	甲南大学「社会課題の伝え方・伝わり方」
大阪ガス株式会社	ゲストスピーカー	うめきた Talkin'About「保育園からはじまるまちづくり」
社会福祉法人神河町社会福祉協議会	パネリスト	越知谷大楽交Ⅳ フォーラム「かわのまちほいくえんから見えてきた“普段使いする地域拠点”の重要性」
兵庫大学エクステンション・カレッジ	講師	就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業「就職基礎力向上」

小笹雄一郎

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会	講師	東灘区児童館指導員研修
社会福祉法人加西市社会福祉協議会	講師	市町社協活動推進協議会 東播磨ブロック協議会 令和３年度第１回職員部会業務研修会
ＮＰＯ法人プラッツ	講師	但馬コミュニティ共創会議 2021
社会福祉法人神戸市社会福祉協議会	講師	指導者向け講習会「コロナ禍でもつながれる！オンラインコミュニケーション」1
社会福祉法人神戸市社会福祉協議会	講師	指導者向け講習会「コロナ禍でもつながれる！オンラインコミュニケーション」2

津久井あゆみ

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	講師	卒業後の社会参加のためのＮＰＯとボランティア活動
稲美町生涯学習課	講師	オンラインの広報を知ろう「明日から活用する SNS 広報のヒント」

菅岩あゆ子

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	ゲストスピーカー	「住民主体のまちづくり＆市民活動の実践を学ぶ」 講義と演習 / 市民活動の実際を団体リーダーから聞く

津久井あゆみ・菅岩あゆ子

兵庫教育大学	ゲストスピーカー	社会ボランティア体験学習講座「市民活動の現場の人に聞こう」

柏木輝恵・小笹雄一郎・阪口　努・王　茂厚

兵庫大学エクステンションカレッジ	講師	就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業「私のためのキャリア設計」

阪口　努

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	講師	コミュニケーション＆ワークショップ講座

木上裕貴

シチズンシップ共育企画	ゲストスピーカー	龍谷大学「コミュニティデザイン」 高砂海浜公園のパークコミュニティマネジメントの実践事例

活動計算書（簡易版）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

（円）

	科　目	2021年度実績	2021年度予算	2020年度実績
経常増減額	受取会費	409,000	300,000	282,000
	受取寄付金	328,884	300,000	415,310
	受取助成金等	44,428,534	45,596,199	0
	事業収益			
	(1)　個人のジリツ支援	0	0	15,000
	(2)　市民のジリツ支援	37,321,329	3,6,588,200	37,288,000
	(3)　地域のジリツ支援	1,816,117	1,530,000	3,282,400
	(4)　団体のジリツ支援	483,250	160,000	2,261,781
	(5)　全てのジリツ支援	8,065,388	6,845,000	1,707,889
	事業収益計	47,806,084	45,123,200	44,555,070
	その他収益計	2,188,642	1,669,040	3,186,454
	A 経常収益計	95,161,144	92,988,439	48,438,834
	事業費			
	(1)　人件費	58,157,927	63,942,610	31,224,009
	(2)　その他経費	34,147,477	32,751,102	12,042,954
	事業費計	92,305,404	96,693,712	43,266,963
	管理費			
	(1)　人件費	3,800,457	3,373,426	1,780,744
	(2)　その他経費	3,237,349	2,768,760	1,821,962
	管理費計	7,037,806	6,142,186	3,602,706
	B 経常費用計	99,343,210	102,835,897	46,869,669
	E 当期経常増減額(A-B)	△4,182,066	△11,510,499	1,569,165
経常外増減額	過年度損益修正益及び特別利子補給制度	0	0	1,480
	C 経常外収益計	0	0	1,480
	過年度損益修正損	1	0	3,300
	D 経常外費用計	1	0	3,300
	F 当期経常外増減額(C-D)	△1	0	-1,820
正味財産増減	G 税引前当期正味財産増減額(E+F)	△4,182,067	△9,847,458	1,567,345
	H 法人税、住民税及び事業税	82,000	80,000	271,300
	当期正味財産増減額(G-H)	△4,264,067	△9,927,458	1,296,045
	前期繰越正味財産額	33,850,953	33,850,953	32,554,908
	次期繰越正味財産額	29,586,886	23,923,495	33,850,953

貸借対照表（簡易版）

2022年3月31日現在

（円）

	科　目	2021年度実績
Ⅰ 資産の部	1　流動資産	
	小口現金	707,941
	普通預金	24,792,508
	定期預金	0
	未収金	1,132,584
	前払金	15,980
	流動資産合計	26,649,013
	2　固定資産	
	有形固定資産	61,587, 060
	投資その他の資産	72,500
	固定資産合計	61,659,560
	資産合計	88,308,573

（円）

	科　目	2021年度実績
Ⅱ 負債の部	1　流動負債	
	未払金	6,730,379
	未払法人税等	1,262900
	前受金	3,857,396
	預り金	430,501
	仮受金	2,511
	流動負債合計	12,283,687
	2　固定負債	
	固定負債合計	46,438,000
	負債合計	58,721,687
Ⅲ 正味財産の部	正味財産期首残高	33,850,953
	当期正味財産増減額	△4,264,067
	正味財産合計	29,586,886
	負債及び正味財産合計	88,308,573

2022年度事業計画

2022年度の重点的な取り組み

企画からマネジメントまで、スタッフの総合力を高める人材育成の実施

事業を企画、遂行できる人材、マネジメントできる人材、法人全体の経営的視点をもてる人材を増やすことが、事業の質を高めることに直結します。今年度から人材育成チームの設置と、研修の時間を確保し、個々のスキルアップを強化し、当法人のスタッフ自身が自ら成長していける環境づくりに取り組みます。

事業間連携と若手スタッフの積極配置による独自事業開発への体制づくり

事業の枠を超えて連携し、当法人ならではといえる独自事業を見出していける体制づくりを行います。今年度は、若手スタッフを加えたチームを編成する等、事業を通してスタッフの経験値を高めることで、次年度以降も安定的に新事業を継続できる基盤をつくっていきます。

主要事業のチーム力とマネジメント力を高め、事業基盤を整える

まち保育を実践する「かわのまちほいくえん」の基盤整備

2021 年6月に定員 19 名で開園した「かわのまちほいくえん」。2年目となる 2022 年4月からは、最大定員である 30 名に拡大して園児を受け入れます。職員も増加することから、改めてチームづくりを丁寧に行うとともに、子どもたち一人ひとりの自立と自律に向けた成長に寄り添いながら、寺家町商店街を中心にまちの変化を起こしていく、まちづくりの拠点となる保育園の実現を目指します。

つながる施設「かこむ」の基盤整備

昨今のコロナの影響によって、生活創造活動も変化するなか、昨年度は高齢者向けにはオンラインの勉強会や、コミュニティづくり、また、若者に向けた豊かな生き方の情報発信などに挑戦してきました。今年度は、「かこむ」の5期目の2年目を迎えます。これまで大事にしてきた「つながる」「一緒につくる」「ごちゃまぜ」といったアプローチを改めて意識し、「かこむ」の価値や可能性を高める施設運営を行います。

法人管理・経営部門の基盤整備

昨年度は、保育園2階の「かわのまちリビング」に法人本部を移転し、まちづくり拠点の運営支援にも取り組みました。今年度からは、当法人のスタッフが 35 名を超え、法人の管理・経営部門の役割はますます重要になっています。人材配置を見直し、1つの部門として機能していく基盤づくりに取り組みます。

事業区分

1 個人のジリツを支援する人材育成事業

- 学校への参加型プログラムの提供事業

2 市民のジリツを支援するプロデュース / ネットワーキング事業

- 東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営
- 東播磨「人・まち」わくわく学び塾事業
- 企業等へのコーディネート事業

3 地域のジリツを支援するコミュニティ創造事業

- 加古川経済新聞支援事業
- 公共空間等を活用したコミュニティづくり支援事業
- かわのまちリビング運営支援事業

4 団体のジリツを支援する NPO 等支援事業

- ひょうご市民活動協議会事務局支援事業
- NPO 等活動支援事業（チームブランディングプログラムの提供含む）

5 すべてのジリツを支援する環境整備事業

- かわのまちほいくえん運営事業
- 講師・委員等派遣事業

6 法人本部

- たのたね探究会の開催
- ホームページと機関紙のリニューアル
- 人材育成の強化

シミンズシーズ 2021 年度年次報告書

発行元／問い合わせ先

ＮＰＯ法人 **シミンズシーズ**

〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 363-4 かわのまちビルディング 2 階

Tel：079-422-0402　Fax：079-421-0407　Mail：info@npo-seeds.jp　Web：www.npo-seeds.jp